

P-285 悪性腫瘍と鑑別困難であったinflammatory pseudotumorの2例(一般演題(ポスター)30 症例06, 第48回日本肺癌学会総会号)

著者	山本 真一, 長谷川 剛, 手塚 憲志, 大谷 真一, 金井 義彦, 手塚 康裕, 遠藤 哲哉, 佐藤 幸夫, 遠藤 俊輔, 塚田 博, 蘇原 泰則
雑誌名	肺癌
巻	47
号	5
ページ	596
発行年	2007-10-10
権利	日本肺癌学会
URL	http://hdl.handle.net/2241/00134110

P-285 悪性腫瘍と鑑別困難であった inflammatory pseudotumor の 2 例

山本 真一・長谷川 剛・手塚 憲志・大谷 真一
金井 義彦・手塚 康裕・遠藤 哲哉・佐藤 幸夫
遠藤 俊輔・塚田 博・蘇原 泰則

自治医科大学 外科学講座 呼吸器外科部門

術前に悪性腫瘍との鑑別が困難であった inflammatory pseudotumor の 2 症例について報告する。

(症例 1) 62 歳男性。健診で異常を指摘された。右上肺野に 3cm の腫瘍影を認め、PET 検査で集積を認め悪性を疑う所見であった。気管支鏡検査で右 B3a に突出する腫瘍を認めたが、易出血性病変のため生検困難であった。診断治療目的に当科紹介され、右上葉切除術を施行した。術中迅速組織診で inflammatory pseudotumor と診断した。

(症例 2) 31 歳女性。健診で異常を指摘された。右上肺野に径 2cm の腫瘍影を認め、PET 検査で集積を認め悪性を疑う所見であった。気管支鏡検査を施行するも確定診断に至らず、診断治療目的に当科紹介。胸腔鏡下肺部分切除を施行し、術中迅速組織診で spindle cell 由来の悪性腫瘍が疑わしいとの診断であったため、右肺上葉切除、2 群リンパ節郭清を施行した。永久標本で inflammatory pseudotumor の診断が確定した。

2 例とも PET 検査で悪性を疑う所見であり、術前に悪性腫瘍との鑑別が困難であった。また、症例 2 では術中迅速診断でも鑑別困難であったため悪性に準じて手術を施行した。